



科学技術振興機構報 第1424号

令和2年4月13日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel : 03-5214-8404(広報課)
URL <https://www.jst.go.jp>

日本科学未来館 新館長（浅川 智恵子 IBM フェロー） 就任予定について

JST（理事長 濱口 道成）は、令和3年4月1日発令にて、日本科学未来館 毛利 衛 館長の後任として、IBM T. J. ワトソン研究所 フェローの浅川 智恵子氏（61歳）を選任する予定です。浅川氏は館長就任後も、IBM フェローを兼務します。

日本科学未来館の概要、浅川氏の抱負および略歴は別紙のとおりです。

<添付資料>

別紙1：日本科学未来館概要

別紙2：浅川 智恵子氏の抱負および略歴

日本科学未来館概要

日本科学未来館は平成13年（2001年）に開館し、東京お台場に設置されています。開館当初以来、館長は宇宙飛行士の経験を持つ毛利衛が務めてきました。未来館では、「国民一人一人が、人間社会と科学技術の在り方を探り、文化の形成に果たす科学技術の役割と未来を示唆し合い、語り合い、理解し合う場」という設立の基本理念に基づき活動しています。

浅川 智恵子氏の抱負および略歴

＜抱負＞

毛利衛館長の後任として、今から1年後の2021年4月1日から、日本科学未来館の運営を担うこととなりました。皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

日本科学未来館は、2001年に東京お台場に開館して以来、東日本大震災など、いくつもの困難な局面もあった中、着実に発展を遂げ、今や世界的にも名前を知られる存在となっています。未来館は来年度（2021年度）から、次の10年間の長期ビジョンに向けた計画期間に入ります。来年4月から館長として、その10年間のかじ取りを任される立場となりました。私が館長として、就任後取り組みたいと考えていることが、2つあります。

第一に、「誰一人取り残さない」社会の実現に、科学技術を通して貢献することです。2030年はSDGs達成の目標年です。SDGsの重要な目標は、「誰一人取り残さない、ダイバーシティ（多様性）を大切にするインクルーシブな社会の実現」です。私自身、女性でかつ視覚に障がいを持つというダイバーシティを自分の強みに変え、これまでアクセシビリティの研究開発に取り組んできました。これにより、微力ながらこうした価値観を日本だけでなく、世界の方々にご理解いただくきっかけ作りに寄与できたのでは、と感じています。未来館の館長として、これまでの研究をさらに発展させ、館内において新たに研究室を設置し研究を展開することで、女性や障がいを持つ方々、そしてあらゆる年齢層の方々にとって来館しやすい環境づくりに尽力していきます。

第二に、Society 5.0が進展する中で、未来館自身をその実験場とすることです。2030年に向け、AIの技術が交通や住宅などの身近なものと融合し、社会のデジタル化はますます進化するでしょう。これまで、世界のテクノロジーをリードするIT企業で最前線の研究活動に従事しており、特にこの6年間は多国籍なメンバーと共に海外を拠点として研究を推進してきました。こうした経験をベースに、未来館が、インクルーシブな未来社会をいち早く体験し、社会に実装する道筋を皆さまと共に構想する場となれるよう、展示や情報発信などのさまざまな活動に、全力で取り組んでいきたいと思っております。

館長就任までの1年間において、2030年までの長期ビジョンを描いていく中で、未来館の進むべき道を示していきます。

新しい未来館にぜひご期待ください。

<略歴>

浅川 智恵子（あさかわ ちえこ）61歳



IBMコーポレーション、IBM フェロー
IBM T. J. ワトソン研究所
IBM 特別功労教授、カーネギーメロン大学

IBM Fellow, T. J. Watson Research Center,
IBM Research
IBM Distinguished Service Professor,
Carnegie Mellon University

小学校時代にプールでの怪我がもとで徐々に視力が衰え始め、中学2年生の時に失明。大学卒業後日本ライトハウスでプログラミングを学ぶ。

- 1985年 日本アイ・ビー・エム株式会社（日本IBM）東京基礎研究所に入社
- 1992年 日本語デジタル点字システムを開発
- 1997年 史上初の実用的な音声WEBブラウザ、IBM ホームページリーダーを開発
- 1999年 厚生労働大臣賞
- 2004年 東京大学 大学院工学系研究科 先端学際工学専攻 博士課程修了、博士（工学）取得
- 2009年 日本IBMでは史上3人目のIBM フェローに就任
- 2011年 文部科学大臣表彰
- 2012年 ICT超高齢社会構想会議 構成員（総務省）
- 2013年 紫綬褒章
- 2014年 米国カーネギーメロン大学 IBM 特別功労教授に就任
- 2016年 2020ワールド・ロボット・サミット実行委員会諮問会議（経済産業省）
- 2017年 視覚障がい者の屋内ナビゲーション技術NavCogを発表
- 2017年 米国National Academy of Engineering メンバー
- 2018年 米国IBM T. J. ワトソン研究所に移籍
- 2019年 全米発明家殿堂入り
- 2020年 米国盲人協会 ヘレンケラー・アチーブメント・アワード
- 2020年 視覚障がい者のためのナビゲーションロボット、AIスーツケースを発表